

研究報告書第34号

K 1 - 0 1

生徒の地域活動を活性化するための学校の役割

1 9 8 5 . 3

山 形 県 教 育 セ ン タ ー

研究報告書第34号(昭和60年3月刊)

生徒の地域活動を活性化するための学校の役割

山形県教育センター

目 次

第1章 調査研究の趣旨とねらい

第1節 研究のねらい

第2節 調査研究の趣旨

第2章 研究の手順と方法

第1節 研究の手順

第2節 調査の方法

第3章 中学生の地域における活動に関する学校の考え — 調査結果の分析と考察 —

第1節 生徒の地域活動に対する学校の姿勢

第2節 地域活動活性化と学校の教育活動

第3節 学校と公民館とのかかわり

第4章 調査研究のまとめと今後の課題

調 査 研 究 の 概 要

1. 調査研究のねらい

心身の発達上きわめて重要な時期にある中学生の人格形成には、学校教育だけでなく、地域社会や家庭などの学校外の実験機能の果たす役割が重視されている。今日、中学生の地域社会での生活体験が少なくなり、地域社会での活動の活性化の必要性が指摘されている。そこで、生徒の地域活動を活性化するために学校がどのような役割をもつのかを明らかにし、学校教育と社会教育の連携の糸口を探る。

2. 調査の対象と方法

(1) 調査の対象

県内の公立中学校 145 校

(2) 調査の方法

調査票を対象校に郵送し、記入済みのものを返送してもらう方法をとった。

(3) 調査項目

生徒の地域活動に対する学校の基本的な考え、生徒の地域活動にかかわる学校の実験活動の実態、生徒の地域活動を推進している公民館と学校との結びつき

3. 調査研究のまとめ

調査結果をみると、全ての学校において、生徒が地域で活動することについての教育的価値を認めており、また、活動の主体者である生徒自身も関心をもっていると考えていた。しかしながら、生徒が地域で活動する条件に関しては、未だ整備されていないと考えている学校が多く、生徒の地域活動が活発に展開されているとはいえない現状にある。生徒の地域活動の活性化を図るためには、いろいろな角度から究明していかなければならないと考える。本研究では、学校教育の観点にたち研究をすすめてきた。生徒の地域活動を活性化するために学校に期待される役割を、調査結果をもとにして考察してみる。

第1に、「生徒の地域活動」に関する教職員の共通理解を図ること。そして、そのことを土台にして、生徒の地域活動活性化のための校内推進体制を確立すること。

第2に、生徒に対して「地域活動」を観念的に理解させるだけでなく、体験を通して理解を図るよう努めること。生徒の実践化を促進するために、学校の実験活動を新たな観点から検討すること。

第3に、青少年の健全育成にとりくんでいる地域の人びとへ働きかけるとともに、地域社会の中で相互に連携協力し合う体制づくりに主体的に努力すること。

総括的にいえば、学校は地域社会そのものを教育の場としてとらえ、地域社会のもつ教育力を高め、生徒の成長発達を促す方向に整備していくことが肝要である。生徒にとって学校の実験力と学校外の実験力とが補完し合い、一貫した方向で有効に機能していくことこそ、今望まれるところである。

4. 今後の課題

58年、59年の二年間で、学校教育の観点から「学校の実験活動と生徒の地域活動との関連」について調査研究をすすめてきた。今後残された課題として、生徒の地域活動の活性化を図るには、学校の中での努力や学校からの働きかけのみで解決し得るものでなく、学校以外の実験機能の中にも多くの問題がある。そこで、社会教育の条件整備や地域住民の考え方についても研究する必要がある。

は じ め に

昔から、子どもたちはいろいろな人たちとのふれあいをとおして成長していくものであるといわれてきました。このことを子どもの生活の場面から考えてみますと、1つには、家庭にあって親や兄弟とのふれあい、2つには、学校内における教師や生徒同志のふれあい、3つめに、地域社会において年齢の異なる仲間や地域の人びととのふれあい、などが想定されます。

次代を担う心豊かでたくましい子どもの育成を図るためには、子どもたちがそれぞれの生活の場において充実した活動ができるように整備していくことこそ、私たち大人に課せられた役割であると考えます。そのためには、家庭教育・学校教育・社会教育が相互に緊密な連携協力を図り、地域社会の中で子どもたちが意欲的に活動できるような体制をつくっていくが必要になります。

当教育センターでは、学校教育の観点にたって、「学校の実験活動と児童生徒の地域活動との関連について」の研究を2年継続事業として取り組んでまいりました。研究の2年次にあたる本年度は、「中学生の地域活動を活性化するための学校の役割」を明らかにするために、調査を実施しました。

この報告書は、その調査結果をもとにして若干の分析考察を加えたものであります。最近、県内各地において、生徒の地域活動に関連する意欲的な実践活動を実施している学校の情報にふれる機会が多くなりました。この報告書をいろいろな角度から検討いただくとともに、それらの教育活動の基礎資料としてご活用いただければ幸いです。

最後に、この調査を実施するにあたり、お忙しい中ご協力いただきました各中学校の関係者に厚くお礼申し上げます。

昭和60年3月

山形県教育センター所長

五十嵐 和 夫

生徒の地域活動を活性化するための学校の役割

目 次

第1章 調査研究の趣旨とねらい	
第1節 研究のねらい	1
第2節 調査研究の趣旨	1
第2章 研究の手順と方法	
第1節 研究の手順	2
第2節 調査の方法	3
第3章 中学生の地域における活動に関する学校の考え	
－ 調査結果の分析と考察 －	
第1節 生徒の地域活動に対する学校の姿勢	4
1. 生徒の成長と地域活動の意義	4
2. 地域活動に対する生徒の関心と住民のとりくみについて	4
3. 生徒の地域活動の活性化について	4
第2節 地域活動活性化と学校の教育活動	5
1. 地域活動に生徒の参加を促すための指導	5
(1) 地域活動に関する情報の収集	5
(2) 生徒の地域活動への参加をすすめる指導	5
2. 地域社会での活動にかかわる学校の教育活動	6
(1) 地域社会での活動にかかわる学校の教育活動の実施状況について	7
(2) 地域社会での活動にかかわる学校の教育活動の実施方法について	7
(3) 生徒の自主的活動への発展	8
第3節 学校と公民館とのかかわり	9
1. 公民館事業への生徒の参加	9
2. 学校と公民館とのかかわり	9
第4章 調査研究のまとめと今後の課題	11
資料編	
1. 「生徒の地域活動を活性化するための学校の役割」 調査票	13
2. 同 上 集計結果	22

第1章 調査研究の趣旨とねらい

第1節 研究のねらい

青少年の健全育成を図るために、生徒の地域活動活性化のための学校の役割を明らかにし、学校教育と社会教育の連携の糸口を探る。

第2節 調査研究の趣旨

この調査研究は昨年度の「中学生の地域活動に関する教師の意識」の継続研究である。

研究の趣旨については、すでに昨年度発行した報告書（研究報告書第31号）の冒頭にかかげてあるが、一応ここでもその要点を次の三点に要約してのべておきたい。

この調査研究に着手した第1の理由は、青少年の望ましい人間関係を図るためには、それぞれの発達段階において達成されるべき課題があることに着目し、それらの課題を達成するのに必要な条件を整備したり、青少年の活動を保障していくことが教育に携わる者の重要な責務であると考えたからである。

第2の理由は、青少年の人間形成は、日常生活が営まれている家庭・学校・社会のあらゆる場において意図的・無意図的に行われるものであると考え、家庭・学校・社会がそれぞれの教育機能を発揮するとともに調和を保ちながら連携を進めることが重要であり、その連携の糸口を探りたいという意図があったからである。

第3の理由として、青少年の生活実態に目をむけてみると、青少年は自然との接触や年齢の異なる仲間とのふれあい、地域の文化や他の世代とのふれあいが不足しており、また、責任感や思いやり、自発的行動力なども欠けていることがしばしば指摘されている。このような現状の中で青少年を健全に育成するためには、彼らの生活体験の場を家庭や学校以外の場——いいかえれば地域社会——に拡充し、その中で展開される活動を活性化していくことが極めて重要な課題であると判断したからである。

しかしながら、現在青少年の地域社会における活動は必ずしも活発であるとはいいがたい。我々はその要因を次の5点に整理してみた。

その第1は、児童生徒の地域活動に対する教師の考え方に問題があるのではないか。

第2に、児童生徒の地域活動に対する学校の考え方に問題があるのではないか。

第3に、活動が展開される地域社会そのものの中に問題があるのではないか、換言すれば、社会教育側の条件整備が不十分なのではないか。

第4に、児童生徒の地域活動に対する地域住民の考え方に問題があるのではないか。

第5に、地域活動に対する児童生徒の考え方に問題があるのではないか。

昨年度研究の調査によれば、教師は自ら考えている教育課題と生徒が地域で活動することの教育的価値とは密接な関連があると考えていた。そして、生徒に地域で活動することを体験させることの必要性も強く感じていた。また、単に必要性を感じているだけでなく、生徒を地域活動に積極的に参加させたいという姿勢ももっていた。しかし、教師の対応は意識のレベルであって、実践のレベルに達しているとはいいがたい状況にあった。教師は生徒に地域活動の意義を理解させるだけでなく、地域における役割を認識させ、自分からすすんで地域活動に参加する意欲をもたせるよう努めることが必要であると思

研 究 担 当 者

指導主事	小 田 島	健 男
〃	杉 沼	徹
〃	黒 川	辰 治
〃	今 野	澄
〃	中 鉢	鉄 太 郎

う。

地域社会に開かれた学校教育の重要性が指摘されている今日、学校が地域社会とのかかわりの中で自らの役割を再考し、教育活動を展開していくことは重要なことであると考え。中央教育審議会指導内容等小委員会審議経過報告（昭和58年11月15日）の中でも、「今日、学校教育をめぐる諸問題が様々に指摘されているが、これらの問題解決のためには、（中略）子どもの人間形成に影響を与えている家庭や地域等学校以外の教育機能の果たす役割が極めて重視される。」とのべている。青少年の健全育成のために、生徒の地域活動の活性化を図ることは、今日の課題の一つであるといえる。そのため学校の役割もみなおされなければならない。

そこで、今年度は、生徒の地域活動活性化のための学校の役割を明らかにすることによって、学校教育と社会教育の連携の糸口を探る。具体的には、次の観点から、生徒の地域活動活性化のための学校の役割を明らかにしていく。

① 生徒の地域活動に対して学校ではどのように考えているか。このことについては、つぎの点から検討していく。

ア 生徒の地域活動に対して学校がどのように考えているか。

イ 生徒の地域活動を拡充することに対して学校がどのように考えているか。

ウ 生徒の地域活動に対する地域の人びとのとりくみを学校がどのようにみているか。

エ 地域活動に対する生徒の関心について学校がどのように把握しているか。

② 生徒の地域活動にかかわる学校の教育活動としてどのようなことが実施されているか。このことについては、地域活動に生徒の参加を促すための学校の指導と、地域活動にかかわることを学校の教育活動にとり入れている実態の2点から分析する。

③ 学校が、生徒の地域活動を公的に推進する役を担っている社会教育機関の一つである公民館とどのような結びつきがあるのか。このことについては、公民館の事業に学校がどのようなかかわりをもっていか。公民館の事業に対して学校がどのようなことを要望しているのか、の2点から分析する。

第2章 研究の手順と方法

第1節 研究の手順

この研究は、つぎの手順にしたがってすすめる。

1. 中学生の地域活動の実態等を考慮にいれながら、学校の教育活動との関連の中で、地域活動活性化のための問題点を考える。
2. 中学生の地域活動活性化のための学校の役割について、学校としてどのように考えているのかを調査する。
3. 調査結果を分析し、学校が生徒の地域活動を活性化するためにどのような役割をもつのかを明らかにする。
4. 以上のことから「生徒の地域活動」という具体的な問題を通して、学校教育と社会教育の連携の糸口を探る。

第2節 調査の方法

1 調査方法の検討

調査を実施するため、つぎの事項について検討した。

- ① 調査項目と調査票
- ② 調査の対象
- ③ 調査期間
- ④ 調査方法と集計方法

2 調査の実施

- ① 調査項目の設定
 - 生徒の地域活動に対する学校の考え
 - 地域での活動にかかわることを学校の教育活動にとり入れている現状
 - 学校と公民館との結びつき
- ② 調査票の作成
 - 調査項目をもとにして、調査票を作成した。

③ 調査対象の決定

この調査の対象を県内公立中学校145校の全部とした。（全数調査）

3 調査の方法

調査票を各中学校に郵送し、記入済み調査票を返送してもらう方法をとった。

4 調査期間 昭和59年11月14日～11月27日

5 調査票の回収状況

配布調査票	145票
回収調査票	136票
回収率	93.8%

規模別回収状況

	調査対象校		回収済校		回収率
1. 5学級以下	45	31.0%	43	31.6%	95.6%
2. 6～11学級	53	36.6	49	36.0	92.5
3. 12～18学級	27	18.6	26	19.1	96.3
4. 19～24学級	12	8.3	11	8.1	91.7
5. 25学级以上	8	5.5	7	5.2	87.5
計	145	100.0	136	100.0	93.8

6 集計方法

当所のコンピューターを利用して集計した。集計は各質問ごとの単純集計を行い、必要に応じて質問間のクロス集計も実施した。

第3章 中学生の地域における活動に関する学校の考え

—— 調査結果の分析と考察 ——

第1節 生徒の地域活動に対する学校の姿勢

子どもたちは、日常生活の中でいろいろなことを学びながら成長していくものである。
子どもの教育を考える時、学校はその中核をなしているが、学校以外の教育機能の役割をも重視していかなければならない。
そこで、生徒の地域活動に対する学校の姿勢を分析する。

1 生徒の成長と地域活動の意義

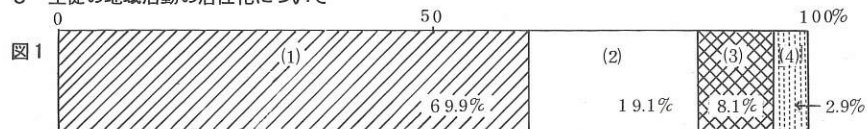
「生徒が地域の行事や公民館の活動に参加することについて、学校ではどのように考えているか」（質問2）については、すべての学校が「生徒の成長に役立つと思う」との答えであった。このことから、県内の中学校では、生徒が地域社会で活動することは生徒の成長にとって意義のあるものと考えているといえる。ただ、20%弱の学校では、それらの活動は生徒にとって大切ではあるが、現状では積極的にすすめることはできないとしている。この学校の考え方を他の質問についての回答から推察すると、他の80%の学校にくらべて、生徒の地域社会での活動については消極的であるといえるようである。

2 地域活動に対する生徒の関心と住民のとりくみについて

「生徒は、地域の行事や公民館活動に参加することについて関心をもっていると思うか」（質問3）については、「非常に関心をもっている」「ある程度関心をもっている」と考えている学校が70%をこえる。これらの学校では、適切な指導を行うことによって、生徒は地域活動に参加する素地をもっていると考えられる。また、生徒は「あまり関心をもっていない」と考えている学校が30%弱あるが、この学校では、地域活動に対する生徒の関心を高める指導が必要であろう。

「学校からみて、校区内の公民館や地域の人びとが、生徒の地域での活動を積極的にすすめていると思いますか」（質問1）については、積極的にすすめていると思っている学校は40%強である。このことから、地域住民の生徒の地域での活動に対するとりくみについて十分でない判断している学校が多いといえる。生徒の地域での活動を活性化するためには、学校は地域住民に対しても働きかけていく必要がある。

3 生徒の地域活動の活性化について



- (1)社会教育関係者と連携して、地域で活動する場や機会をもうける
(2)地域で活動することにかかわることを学校の教育活動にとり入れていく
(3)地域での活動の場や機会の拡充を社会教育関係者にはたらかける
(4)地域で活動することについては、社会教育の分野であると思うので、学校では特に考えなくともよい

「いまの子どもたちは地域で活動することが少なくなっているといわれている。このことにかかわって、学校の立場どうししなければならないと思うか」（質問4）をきいた結果は前ページのグラフのとおりである。

生徒の地域での活動の場や機会を拡充していくことが必要であり、そのために「社会教育関係者に働きかけ」たり、「社会教育関係者と連携して」いこうという考えの学校が80%弱であった。また、20%弱の学校では「地域活動にかかわることを学校の教育活動の中にとり入れていく」との考え方があった。これは、前年度に調査した教師の考え方と同じ傾向である。

地域の人びとと連携していこうとの考え方の学校は、地域の人びとの活動を高く評価しているところが多い。地域の人びとの活動が十分でないと感じている学校では、生徒の地域活動にかかわることを学校の教育活動の中にとり入れていこうという姿勢をもっているところが多い。

第2節 地域活動活性化と学校の教育活動

1 地域活動に生徒の参加を促すための指導

地域の行事や公民館活動に生徒が参加することは生徒の健全育成に役立ち、生徒が地域の行事や活動に関心を持っているとすれば、学校は生徒の地域活動について無関心であってはならない。学校は教育活動の中で生徒の地域活動の活性化を図る指導を行う必要がある。

ここでは、地域の行事や公民館の活動に対して学校が生徒の参加をどうすすめているのかを分析する。

(1) 地域活動に関する情報の収集

「学校では地域の行事や公民館の活動に関する情報をどのようにして集めているか」（質問5）を質問してみた。その結果をみると年間行事計画表・月間行事計画表や各行事ごとの内容や方法が前もって学校に知られるというのが60%あった。また、「生徒が参加できる行事については事前に公民館等と話し合いをしている」学校が20%強あった。さらに、「直接関係者に問い合わせをしている」、「関係者から折にふれて聞くことがある」という学校もあった。全体として95%弱の学校が地域の行事や活動についての情報を事前に持っていることになる。

このことは、学校と地域社会との連携協力という面から見ると大変好ましいことであると言える。しかし、学校で収集した情報を地域活動への生徒の参加を促す指導にどう生かしていくかの検討が必要であろう。

(2) 生徒の地域活動への参加をすすめる指導

中学生の地域活動参加の障害となっている要因として中学生の生活時間にかかわる問題があると言われる。そこで、地域活動に参加する時期や時間について学校でどのような配慮をしているか（質問6）を質問してみた。「日曜日等は部活動をしない」、「長期休業中に生徒を学校に集めない期間をもっている」、「地域で活動する日や期間をもうけている」等の配慮をしている学校が50%以上ある。また、質問5においては、公民館等と事前に話し合いを持ち、時間的な調整をはかって中学生の参加促

進を図る努力をしている学校が20%ほどある。

また、55%強の学校が地域の行事や公民館事業の中で中学生の参加できるものがあるかなりあると見ている(質問18-1)が、そのうちのほとんどの学校で生徒に参加をすすめている(質問18-2)。そのうちの70%強の学校は、かなりの生徒が地域の行事や活動に参加していると評価している(質問18-3)。これは、地域活動のできる場や機会のあるところで適切な参加促進の指導がなされると、生徒の参加が多くなり、生徒の地域活動の活性化が図られるという事実を示していると言える。

2 地域社会での活動にかかわる学校の教育活動

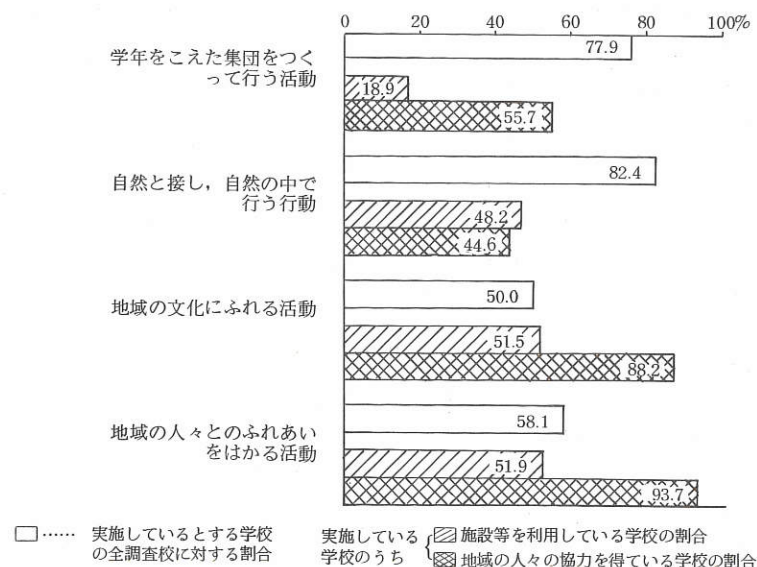
生徒の地域での活動を活性化するために、学校の中で出来ることとして、前項1で述べた生徒が地域活動に参加することをすすめる指導のほかに、学校の教育活動の中で地域での活動にかかわる指導をすることが考えられる。

地域での活動にかかわる学校の教育活動を把握するために、昨年度の調査研究をもとにしながら学校で実施することが期待される教育活動として、次の4点を想定した。

- 学年をこえた集団をつくって行う活動
- 自然と接し、自然の中で行う活動
- 地域の文化にふれる活動
- 地域の人々とのふれあいをはかる活動

ここでは、これら4つの教育活動の実施の状況等について分析する。

(図2) 地域での活動にかかわることを学校の教育活動にとり入れている実態



1) 地域社会での活動にかかわる学校の教育活動の実施状況について

- ① ほとんどの学校で、4つの活動のうち、なんらかの活動を取り上げて実施していることがわかる。なお、学校規模別に実施状況を見ても、実施状況に関する大きな差異は見られない。
- ② 学年をこえた集団をつくって行う活動や、自然と接し、自然の中で行う活動が他の活動にくらべて多くの学校で実施されている。学年をこえた集団での活動や自然に接する機会が少なくなっている現状では、このような活動が必要であるとして、80%強の学校で取り上げて実施している。
- ③ 地域の文化にふれる活動や地域の人々とのふれあいをはかる活動については他の活動にくらべて少ない。このことは、地域とのかかわりが大きな要因となるので実施しにくい側面を持っていると思われる。
- ④ 「生徒が地域で活動することにかかわることを学校の教育活動に取り入れていく」とする学校と、「社会教育関係者と連携して地域で活動する場や機会をもうける」とする学校とでは実施状況に差異は見られない。

2) 地域社会での活動にかかわる学校の教育活動の実施方法について

① 実施のねらい

学年をこえた集団をつくって行う活動では、「上級生が下級生を指導したり、下級生が上級生を尊敬したりする体験の場をつくる」がもっとも多く、次に「与えられた役割を責任をもって実行する態度を培う」、「年齢や生活経験の異なる仲間とのふれあいを図る」の順である。

自然と接し、自然の中で行う活動では、「自然の中で心身を鍛練する」が40%を占め、ついで、「自然に親しむ心や敬けんの念を培う」や「自然と調和して生きていくことの大切さを感じとらせる」というねらいをあげた学校が多い。

地域の文化にふれる活動では「郷土の歴史や文化を掘りおこし、新しい目で郷土を見つめさせる」が60%をこえ、「民話や伝統芸能を継承することの大切さを知らせる」とか「優れた地域文化を鑑賞させる」というねらいも若干ある。

地域の人々とのふれあいをはかる活動では「地域の人々との連帯を深めさせる」、「生徒に地域の形成者の一員であることを自覚させる」、「郷土を愛する心を育てる」の順である。

以上のように、それぞれの学校で生徒の実態に合せ、ねらいを設定して実施しているようである。

② 学校外施設の利用

学年をこえた集団をつくって行う活動や自然と接し自然の中で行う活動の実施にあたっては、少年自然の家や青年の家等の青少年教育施設を利用してという学校はあまり多くない。

地域の文化にふれる活動や地域の人々とのふれあいをはかる活動を実施する時には、ほとんどの学校が学校外の施設を利用している。このように、それぞれの活動をより効果的に行うために学校外の施設にまで目を向けて実施しているようである。

③ 地域の人々の協力

学年をこえた集団をつくって行う活動や自然と接し、自然の中で行う活動においては、およそ

50%の学校でなんらかの形で地域の人々の協力を得て実施している。しかし、地域の人々とのふれあいはかる活動や地域の文化にふれる活動においては90%前後の学校で地域の人々の協力を得て実施している。人々の協力を得ようとする姿勢も、学校外の施設の利用と同じように、それぞれの活動をより効果的にするためのものであることがうかがわれる。

③ 生徒の自主的活動への発展

このような活動がもとになって生徒たちだけで自主的に活動した事例のある学校は47校である。事例をもつ学校についてみると、「地域で活動することにかかわることを学校の教育活動に取り入れていく」とする学校は「社会教育関係者と連携して、地域で活動する場や機会をもうける」とする学校よりも、その事例をもつとする学校の割合が多い。

次にその主な事例を紹介する。

① 奉仕活動

廃品回収や空き缶拾いとか神社、公園等の清掃とか、施設の慰問などであるが、回収によって得た金で恵まれない人達を学校の文化祭や運動会に招待するとか、敬老会でのアトラクションに自主参加した例などはユニークな発想に高まったものといえる。その他にも、高齢者家庭の雪おろし、提案VS活動と称して校内ボランティア活動を推進している学校、不用品を集めて文化祭で販売する募金活動等があった。

② 地域の文化にふれたり、行事へ参加する活動

生徒が学校をはなれて、地域で行われる文化祭や収穫祭へ参加するとか、民話や伝承文化に触れることや、体育行事等にも積極的に参加している。このような地域での活動の結果が学校の教育活動に生かされた例として、文化祭で地域で教わった郷土芸能を全校生に発表したとか、民話の聞き書きなど、学級ごとのテーマを設定して各地区に出向き、その地区の人々から指導を受け、それを学校祭で発表したこと等があった。

③ 学年をこえた集団での活動

地区子ども会のキャンプを計画し、実施したこと。クラブ活動において、郷土を知る目的で、自然の産業の調査をしたり、ふるさと学習と称して神楽班、生活学習班、とんと昔班の中で活動したことなどであった。

④ 地域の人々の協力を得ての活動

地区ごとに、小学生をも含む芋煮会をしたり、地域の人々と共にその地域の危険場所を確認し、標識を掲げるなどの活動を通して、上級生を尊敬し、父母への感謝の気持を持つようになったとした例があった。

第3節 学校と公民館とのかかわり

学校は、生徒の地域社会での活動が生徒の成長に役立つと考えている。

学校は、それらの活動の活性化のために、生徒の参加をすすめる指導にとりくむとともに、それらの活動にかかわることを学校の教育活動にとり入れていることが明らかになった。

生徒の地域社会での活動をより活性化するためには、学校は社会教育関係者と連携していくことも必要であると思う。県内の中学校の多くは、この方向で努力していきたいと考えていた。

そこで、学校と社会教育機関の一つである公民館との関係について分析する。

1 公民館事業への生徒の参加

「公民館の事業に生徒がかなり参加している」（質問18-3）という学校は40%弱である。

この数は、県内のほとんどの中学校が生徒の地域社会での活動が生徒の成長に役立つと考えていることからみると、多い数ではない。多くの生徒が公民館活動に関心をもっているにもかかわらず参加者が多くないのは、現在実施されている公民館の事業が、中学生の実態にあっていないことも要因の一つと考えられる。そこで、中学生が参加しやすい公民館の事業にするために、どのような配慮が必要であると学校が考えているかを質問してみた。

「公民館で中学生を対象とした事業を企画しようとした時、学校として公民館に望むこと」（質問17）は、時期・時間についての配慮が最も多く50%以上の学校から出されている。ついで、内容やプログラムの組み方への配慮、指導者や指導体制への配慮となっている。

公民館事業の時期・時間についてみると、公民館の事業に生徒が参加できない理由として「参加する時間がない」ことをあげる学校が多い。したがって、生徒を公民館の事業に参加させるためには、参加のための時間の確保が必要である。この点について、特別な配慮をしている学校が約半数である。

つぎに、公民館事業の内容については、学校が「生徒を公民館等の事業に参加させるとしたら、その内容として最も望ましいもの」（質問15）として考えているのは、奉仕活動が最も多く、文化活動、スポーツ活動、世代間交流、とつづいている。しかしながら、「中学生をリーダーとして活動させる」ことを期待する学校が15%弱あり、今後の中学生にかかわる公民館事業のあり方を示唆するものとして注目したい。

学校から公民館事業の企画や事業の内容についての要望が満たされるとすれば、学校としても公民館の事業に生徒を参加させることについて、より積極的な指導がなされ、生徒がより参加するようになると思われる。

2 学校と公民館とのかかわり

「校区内の地域の行事や公民館の事業で、中学生が参加できるものがかなりある」（質問18-1）とみている学校は55%強である。他の45%弱の学校では、中学生の地域での活動の場は少ないと判断している。中学生の地域での活動の活性化のためには、中学生の実態にあった活動の場や機会がより拡充されなければならない。そのためにも学校は、社会教育関係者と共に努力していく必要がある。

そこで、社会教育関係者との打合せの機会、公民館事業に対する教員のかかわりの現状について分析

する。

「学校のエデュケーショナル・アクティビティとの調整を図るために、社会教育関係者と打合せをする機会」（質問7）がある学校は60%であり、この会議に「いつも出席している」学校は50%である。これらの機会のない学校の75%強が、教師は公民館の事業に「特にかかわっていない」と答えていることからみても、これらの機会をもつことが相互の理解を深めるために有効であるといえる。また、これらの機会をととして、学校は生徒の地域での活動の場や機会の拡充や内容の充実等について働きかけを行うことができる。そこで、今後これらの機会がより多くもたれることが、中学生の地域での活動の活性化のために必要であろう。

つぎに、「中学生を対象とする公民館の事業に教員がどのようにかかわることが多いか」（質問4）についてみると、「事業のすべてにかかわることが多い」とか、「運営に協力することが多い」「計画に参画することが多い」等なんらかのかかわりをもっている学校が55%弱である。

公民館事業の計画の時期に教員が参画している学校が20%強ある。この時期に教員がかかわりをもつことによって、学校の要望を事業の中にとり入れることが可能であり、生徒の実態にあった事業をつくりあげていくことができる。したがって、このような形で教員のかかわりが増加していくことが望まれる。

公民館事業の運営に協力している学校が40%をこえる。教員に対しては社会教育の指導者としても期待が大きい現状からして、積極的な協力の姿勢をもつことが望まれる。これらの活動に参加することによって、公民館活動の実態にふれ、活動の意義を理解する教員が増加していくことは好ましいことである。

公民館の事業に、教員は「特にかかわっていない」という学校が50%弱ある。前年度の調査では、ほとんどの教員は依頼があれば協力するという姿勢をもっていた。そこで、前述した「打合せの機会」をふやすなど、公民館等から学校への働きかけを行うことが大切であろう。一方、学校では、公民館等からの情報をどのように活用していくかが課題となろう。

第4章 調査研究のまとめと今後の課題

今回の調査は県内の公立中学校145校を対象として実施したが、その中で136校から回答が寄せられた。調査結果からいえることとして次のようなことがあげられる。

- ① 生徒が地域での活動に参加することについては、すべての学校が生徒の成長にとって意義のあるものと考えており、それらの活動の場や機会を拡充していかなければならないという学校が80%強である。生徒が地域での活動に関心をもっていると思っている学校は70%強である。一方、生徒の地域活動に対する住民のとりくみが十分でないと判断している学校が55%強ある。
- ② 生徒の地域での活動を活性化することについての学校の基本的な考え方は、社会教育関係者と共に努力していこうとする学校が80%弱であり、20%弱の学校では地域活動にかかわることを学校のエデュケーショナル・アクティビティの中にとり入れていくという考え方である。
- ③ 大部分の学校では、生徒の地域での活動に関する情報をもっていたが、学校から主体的に収集していたのは25%にすぎない。
- ④ ほとんどの学校では生徒の地域での活動にかかわることを学校のエデュケーショナル・アクティビティの中で実施している。それらの活動の実施にあたって、学校外の施設を利用したり、地域の人々の協力を得ている学校も数多くある。またそれらの活動がもとになって、生徒が自主的に活動した事例をもつ学校がかなりある。
- ⑤ 生徒が公民館の事業にあまり参加していないとみている学校が多い。参加の障害になっていることとして生徒の生活時間をあげた学校が多い。また、公民館事業の内容についての学校からの要望として「奉仕活動」「スポーツ活動」「文化活動」等がある。
- ⑥ 学校のエデュケーショナル・アクティビティと地域での活動との調整をはかるために学校と社会教育関係者との打合せをする機会があるところは60%である。また、公民館事業に教員がなんらかのかかわりをもっているところは55%弱である。

生徒が地域活動をする条件がみだされていないと考えている学校が多く、生徒の地域活動が活発に展開されているとはいえない状況にある。このような中で、生徒の教育に中核的な機能をもつ学校が、生徒の地域活動をより活性化するために、どのような役割をもつか、ということについて調査結果の分析を参考にして考察する。

すべての学校では、「生徒の地域活動の意義」を認めているわけであるから、それぞれの学校で生徒の地域活動を活性化するための推進体制を作ることが期待される。その中でまず教職員の共通理解を図ることが大切である。これによって、学校全体として活性化のための気運が高まり、積極的な指導がなされる可能性が生まれることになるだろう。そこで、今後、学校教育の中で考慮されなければならない点として、次のようなことが考えられる。

- 生徒の地域活動に関する情報を収集し、効果的に活用する方法の工夫をすること
- 生徒が地域での活動を実践しやすくするように学校が配慮をすること
- ほとんどの学校にある「地域ごとの生徒の組織」を地域活動に生かすこと

○地域活動にかかわることを学校の教育活動の中に積極的にとり入れ、必要によっては、地域の教育資源（人的・物的）を活用する工夫をすること

などである。

生徒の地域での活動の場や機会が十分でないと判断している学校がかなりあることからして、青少年の健全育成にとりくんでいる地域の人びとへの働きかけも期待されるところである。例えば、校区内の公民館や各種の施設、青少年の健全育成に努力している子ども会育成会、PTA等の各種団体、地域住民、ボランティア等への働きかけが考えられる。学校はそれらの機関や団体等との関係を密にし、相互に協力しあう地域体制づくりへ努力することが望まれる。

地域社会はまだ教育的な見地からの整備がなされていないこともあって、それが生徒の健全な成長・発達を阻害する力になっていることも事実であろう。しかし、今回の調査で学校は地域社会を前向きにとらえ、教育的にいても大事なことでありという考え方に立ち、なんらかの努力をしていることが明らかになった。学校は地域社会そのものを教育の場としてとらえ、地域社会のもつ教育の機能を高め、生徒達の成長・発達を促す方向に整備していくことが肝要であろう。そのためには、学校教育、社会教育、家庭教育の全面的な協力連携体制を作る必要がある。生徒にとって、学校の教育力と学校外の教育力とが補完し合い、一貫した方向で有効に機能していくことこそ、今望まれるところである。

58年、59年の2年間で学校教育の観点から「学校の教育活動と生徒の地域活動の関連」について調査研究をすすめてきた。今後残された課題として生徒の地域活動の活性化を図るには、学校教育の努力や、学校からの働きかけのみで解決し得るものでなく、学校以外の教育機能の中にも多くの問題がある。そこで、社会教育側の条件整備や地域住民の考え方について研究する必要があるだろう。

参 考 文 献

- | | |
|---------------|------------------------|
| 青少年問題審議会提言 | 「青少年と社会参加について」 |
| 社会教育審議会答申 | 「青少年の徳性と社会教育」 |
| 板垣清一郎 | 「生涯学習のすすめ」 |
| 鹿児島県青少年育成県民会議 | 「青少年自立自興運動便覧」 |
| 松原治郎・鐘ヶ江晴彦著 | 「教育学大全集9 地域と教育」 |
| 湯上二郎・坂本昇一編著 | 「学校と地域の青少年指導」 |
| 岩波講座 | 「子どもの発達と教育7」 |
| 文 部 省 | 「中央教育審議会指導内容等小委員会経過報告」 |
| 文 部 省 | 「中学校指導書 教育課程一般編」 |
| 文 部 省 | 「中学校学習指導要領」 |
| 野村総合研究所 | 「家族の変化と生活設計」 |

中学生の地域における活動に関する学校の考えについての調査

山形県教育センター

— お 願 い —

山形県教育センターは、生徒たちの地域における活動について、学校の考えをまとめてみたいと思っています。学校の名称を書く必要はありません。あなたの学校に迷惑をかけるようなことはありませんので、率直にお答えください。

質問は全部で18あります。どの質問でもいくつかの答えが用意されています。その中から、あなたの学校で日ごろ思ったり考えたりしていることに最も近いものを1つ選んで、選んだ答えの番号を ☐ の中に記入してください。ただし“自由記述”とあるところは自由に考えを書くところです。

なお、質問の文の中に“生徒”とあるのは中学校の生徒をさしています。

質問に先だっておたずねします。

(1) あなたの学校の学級数は何学級ですか。

- | | |
|------------|------------|
| 1. 5学級以下 | 2. 6～11学級 |
| 3. 12～18学級 | 4. 19～24学級 |
| 5. 25学級以上 | |

1
☐

(2) あなたの学校の教員は校長・教頭を含めて何人ですか。

男 () 人 女 () 人

合 計 () 人

質問 1 学校からみて、校区内の公民館や地域の人々が、生徒の地域での活動を積極的にすすめていると思いますか。

1. 積極的にすすめていると思う
2. どちらともいえない
3. 積極的にすすめているとは思わない

☐

質問 2 生徒が地域の行事や公民館活動に参加することについて、あなたの学校ではどのように考えていますか。

1. 生徒の成長に役立つと思うので、今後そのような場や機会をひろげていきたい。
2. 生徒の成長に役立つと思うが、生徒の生活時間などをみるとすすめることはできない
3. 生徒の成長に格別意味があるとは思わないので、参加のすすめについては特に考えていない
3. 生徒の学校生活におもしろくない影響があるので、参加させるべきでない

☐

質問 3 あなたの学校の生徒は、地域の行事や公民館活動に参加することについて関心をもっていると思いますか。

1. 非常に関心をもっていると思う
2. ある程度関心をもっていると思う
3. 余り関心をもっていないと思う
4. 全然関心をもっていないと思う
5. わからない

☐

質問 4 いまの子どもたちは地域で活動することが少なくなっていると言われていま

す。

このことにかかわって、学校の立場でどうしなければならないと思いますか。

1. 地域での活動の場や機会の拡充を社会教育関係者にはたらきかける
2. 地域で活動することにかかわることを学校の教育活動にとり入れていく
3. 社会教育関係者と連携して、地域で活動する場や機会をもうける
4. 地域で活動することについては、社会教育の分野であると思うので、学校では特に考えなくともよい

☐

質問 5 あなたの学校では、地域の行事や公民館の活動に関する情報をどのようにして集めていますか。

1. 行事が行われるたびに、学校に知らせがくる
2. 年間の行事計画が学校に知らされてくる
3. 毎月の行事計画が学校に送られてくる
4. 関係のある人々から折りにふれて聞くことがある
5. 生徒が参加できる行事については、事前に公民館等と話し合いをしている
6. 学校から関係ある人に問いあわせている
7. 情報はあまり集めていない

☐

質問 6 あなたの学校では、生徒が地域で活動できるように、時期や時間について何か配慮していますか。

1. 日曜日等は部活動をしないようにしている
2. 長期休業中に生徒を学校に集めない期間をもうけている
3. 「地域活動の日」等地域で活動する日や期間をもうけている
4. 特に配慮していない

☐

質問 7-1 あなたの学校では、学校の教育活動と地域の活動との調整を図るために、社会教育関係者（社会教育課や公民館の職員等）との打合せをする機会がありますか。

1. あ る
2. な い

☐

質問 7-2 質問 7-1 で、1 の答えを選んだ方だけ答えてください。
そのような会に出席しておりますか。

1. いつも出席している
2. ときどき出席している
3. ほとんど出席することはない

☐

質問 8-1 あなたの学校では、地域ごとの生徒の組織をつくっておりますか。

1. つくっている
2. つくっていない

☐

質問8-2 質問8-1で、1の答えを選んだ方だけ答えてください。

(1) このような生徒の組織があることによって、良い点はどのようなことですか。

1. 生徒の地域での暮らし方について指導しやすい
2. 地域行事がある時、生徒の参加について指導しやすい
3. 地域における生徒の主体的な集団活動を進めやすい
4. 地域を活動の場とする学校の教育活動を進めやすい
5. 学年をこえた仲間づくりを進めやすい

11
☐

(2) 学校内で集まって話し合う機会をどのくらいもうけておりますか。

1. 毎月1回程度
2. 学期ごとに1～2回
3. 年に1～2回
4. 特別もうけていない

12
☐

質問9-1 あなたの学校では、学年をこえた集団を作って行う教育活動を実施しておりますか。

1. 実施している
2. 実施していない

13
☐

質問9-2 質問9-1で、1の答えを選んだ方だけ答えてください。

(1) その活動の主なねらいはつぎにあげる項目の中でどれに最も近いですか。

1. 年齢や生活経験の異なる仲間とのふれあいを図る
2. 上級生が下級生を指導したり、下級生が上級生を尊敬したりする体験の場をつくる
3. 与えられた役割を責任をもって実行する態度を培う
4. 社会生活に必要な規範を身につけ実行する態度を培う

14
☐

(2) その活動を実施する時に、少年自然の家や青年の家等の青少年教育施設を利用しておりますか。

1. 利用している
2. 利用していない

15
☐

(3) その活動を実施する時に、地域の人々の協力を得て実施しておりますか。

1. い る
2. い な い

16
☐

質問10-1 あなたの学校では、自然と接し、自然の中で行う教育活動を実施しておりますか。

1. 実施している
2. 実施していない

17
☐

質問10-2 質問10-1で、1の答えを選んだ方だけ答えてください。

(1) その活動の主なねらいは、つぎにあげる項目の中でどれに最も近いですか。

1. 自然の厳しさや美しさを知らせる
2. 動物や植物に対する愛情を培う
3. 自然に親しむ心や敬けんの念を培う
4. 自然と調和して生きていくことの大切さを感じとらせる
5. 自然の中で心身を鍛練する
6. 自然を科学的に理解し探求する態度を培う

18
☐

(2) その活動を実施する時に、少年自然の家や青年の家等の青少年教育施設を利用しておりますか。

1. 利用している
2. 利用していない

19
☐

(3) その活動を実施する時に、地域の人々の協力を得て実施しておりますか。

1. い る
2. い な い

20
☐

質問11-1 あなたの学校では、地域の文化にふれる活動を実施しておりますか。

1. 実施している
2. 実施していない

21
☐

質問11-2 質問11-1で、1の答えを選んだ方だけ答えてください。

(1) その活動の主なねらいは、つぎにあげる項目の中でどれに最も近いですか。

1. 郷土の歴史や文化を掘りおこし、新しい目で郷土をみつめさせる
2. 民話や伝統芸能を継承することの大切さを知らせる
3. 自ら芸術活動に参加していくことの大切さを知らせる
4. 優れた地域文化を鑑賞させる

22

☐

(2) その活動を実施する時に、地域の人々の協力を得て実施しておりますか。

1. 利用している
2. 利用していない

23

☐

(3) その活動を実施する時に、地域の人々の協力を得て実施しておりますか。

1. い る
2. い な い

24

☐

質問12-1 あなたの学校では、地域の人々とのふれあいをはかる活動を実施しておりますか。

1. 実施している
2. 実施していない

25

☐

質問12-2 質問12-1で、1の答えを選んだ方だけ答えてください。

(1) その活動の主なねらいは、つぎにあげる項目の中でどれに最も近いですか。

1. 生徒に地域の形成者の一員であることを自覚させる
2. 地域の人々との連帯を深めさせる
3. 郷土を愛する心を育てる

26

☐

(2) その活動を実施する時に、学校外の施設を利用しておりますか。

1. 利用している
2. 利用していない

27

☐

(3) その活動を実施する時に、地域の人々の協力を得て実施しておりますか。

1. い る
2. い な い

28

☐

質問13 質問9～質問12のような活動がもとになって、生徒たちだけで自主的に活動した事例がありますか。もし、ありましたら ☐ の欄に具体的な活動事例をお書きください。

29

☐

1. あ る
2. な い

自由記述

質問14 あなたの学校では、中学生を対象とする公民館の事業に教員がどのようにかわることができるでしょうか。

1. 事業の計画に参画することが多い
2. 事業の運営に協力することが多い
3. 計画・運営等事業のすべてにわたってかわることが多い
4. 特にかかわっていない

30

☐

質問15 あなたの学校の生徒を公民館等の事業に参加させるとしたら、その内容として最も望ましいものはつぎにあげるものの中でどれでしょうか。

1. スポーツ活動を主としたもの
2. 奉仕活動を主としたもの
3. 文化活動を主としたもの
4. 伝統文化の継承活動を主としたもの
5. 自然とのふれあい、自然を守る活動を主としたもの
6. 世代間のふれあいをはかる活動を主としたもの
7. 中学生をリーダーとして活動させることを主としたもの

31

☐

質問16 あなたの学校では、公民館等が主催する事業に対してつぎにあげる学校施設を使用させたことがありますか。

(1) 体育館

1. ある 2. な い

32
☐

(2) グランド

1. ある 2. な い

33
☐

(3) その他の施設

1. ある 2. な い

34
☐

質問17 公民館で中学生を対象とした事業を企画しようとした時、学校として、公民館に最も望むことはつぎにあげるものの中でどれでしょうか。

1. 時期や時間についての配慮
2. 行事の内容やプログラムの組み方についての配慮
3. 指導者や指導体制についての配慮
4. 経費についての配慮
5. 教員の参加についての配慮
6. 特に望むことはない

35
☐

質問18-1 校区内の地域行事や公民館事業の中で、生徒が参加できるものがありますか。

1. かなりある
2. ほとんどない
3. わからない

36
☐

質問18-2 質問18-1で、1の答えを選んだ方だけ答えてください。

あなたの学校では、それらの行事に参加することを生徒にすすめておりますか。

- 1.すすめている
- 2.すすめていない

37
☐

質問18-3 質問18-1で、1の答えを選んだ方だけ答えてください。

生徒たちはそれらの行事に参加しておりますか。

1. かなり参加している
2. あまり参加していない
3. ほとんど参加していない

38
☐

質問18-4 質問18-3で、2・3の答えを選んだ方だけ答えてください。

生徒が参加しないのはどうしてだと思いますか。

1. 行事の内容が生徒にあわないから
2. 生徒は参加する時間がないから
3. 生徒はそれらの行事に関心がないから
4. なぜ参加しないのかわからない

39
☐

ご協力ありがとうございました

資料2

集 計 結 果

質問 1 学校からみて、校区内の公民館や地域の人々が、生徒の地域での活動を積極的にすすめていると思いますか。

1. 積極的にすすめていると思う	58	42.6%
2. どちらともいえない	57	41.9
3. 積極的にすすめているとは思わない	21	15.4
	136	100.0

質問 2 生徒が地域の行事や公民館活動に参加することについて、あなたの学校ではどのように考えていますか。

1. 生徒の成長に役立つと思うので、今後そのような場や機会をひろげていきたい	111	81.6%
2. 生徒の成長に役立つと思うが、生徒の生活時間などをみるとすすめることはできない	25	18.4
3. 生徒の成長に格別意味があるとは思わないので、参加のすすめについては特に考えていない	0	—
4. 生徒の学校生活におもわしくない影響があるので、参加させるべきでない	0	—
	136	100.0

質問 3 あなたの学校の生徒は、地域の行事や公民館活動に参加することについて関心をもっていると思いますか。

1. 非常に関心をもっていると思う	7	5.1%
2. ある程度関心をもっていると思う	90	66.2
3. 余り関心をもっていないと思う	37	27.2
4. 全然関心をもっていないと思う	0	—
5. わからない	2	1.5
	136	100.0

質問 4 いまの子どもたちは地域で活動することが少なくなっていると言われています。

このことにかかわって、学校の立場でどうしなければならないと思いますか。

1. 地域での活動の場や機会の拡充を社会教育関係者にはたらきかける	11	8.1%
2. 地域で活動することにかかわることを学校の教育活動にとり入れていく	26	19.1
3. 社会教育関係者と連携して、地域で活動する場や機会をもうける	95	69.9
4. 地域で活動することについては、社会教育の分野であると思うので、学校では特に考えなくともよい	4	2.9
	136	100.0

質問 5 あなたの学校では、地域の行事や公民館の活動に関する情報をどのようにして集めていますか。

1. 行事が行われるたびに、学校に知らせがくる	47	34.6%
2. 年間の行事計画が学校に知らされている	26	19.1
3. 毎月の行事計画が学校に送られてくる	7	5.1
4. 関係のある人々から折りにふれて聞くことがある	16	11.8
5. 生徒が参加できる行事については、事前に公民館等と話し合いをしている	30	22.1
6. 学校から関係ある人に問いあわせている	3	2.2
7. 情報はあまり集めていない	7	5.1
	136	100.0

質問 6 あなたの学校では、生徒が地域で活動できるように、時期や時間について何か配慮していますか。

1. 日曜日等は部活動をしないようにしている	16	11.8%
2. 長期休業中に生徒を学校に集めない期間をもうけている	43	31.6
3. 「地域活動の日」等地域で活動する日や期間をもうけている	16	11.8
4. 特に配慮していない	61	44.8
	136	100.0

質問7-1 あなたの学校では、学校の教育活動と地域の活動との調整を図るために、社会教育関係者（社会教育課や公民館の職員等）との打合せをする機会がありますか。

1. あ る	82	60.3%
2. な い	54	39.7
	136	100.0

質問7-2 質問7-1で、1の答えを選んだ方だけ教えてください。
そのような会に出席しておりますか。

1. いつも出席している	68	82.9%
2. ときどき出席している	14	17.1
3. ほとんど出席することはない	0	—
	82	100.0

質問8-1 あなたの学校では、地域ごとの生徒の組織をつくっておりますか。

1. つくっている	128	94.1%
2. つくっていない	8	5.9
	136	100.0

質問8-2 質問8-1で、1の答えを選んだ方だけ教えてください。

(1) このような生徒の組織があることによって、良い点はどのようなことですか。

1. 生徒の地域でのくらし方について指導しやすい	54	42.2%
2. 地域行事がある時、生徒の参加について指導しやすい	29	22.7
3. 地域における生徒の主体的な集団活動を進めやすい	22	17.2
4. 地域を活動の場とする学校の教育活動を進めやすい	15	11.7
5. 学年をこえた仲間づくりを進めやすい	8	6.2
	128	100.0

(2) 学校内で集まって話し合う機会をどのくらいもうけておりますか。

1. 毎月1回程度	1	0.8%
2. 学期ごとに1～2回	76	59.4
3. 年に1～2回	47	36.7
4. 特別もうけていない	4	3.1
	128	100.0

質問9-1 あなたの学校では、学年をこえた集団を作って行う教育活動を実施しておりますか。

1. 実施している	106	77.9%
2. 実施していない	30	22.1
	136	100.0

質問9-2 質問9-1で、1の答えを選んだ方だけ教えてください。

(1) その活動の主なねらいはつぎにあげる項目の中でどれに最も近いですか。

1. 年齢や生活経験の異なる仲間とのふれあいを図る	20	18.9%
2. 上級生が下級生を指導したり、下級生が上級生を尊敬したりする体験の場をつくる	43	40.5
3. 与えられた役割を責任をもって実行する態度を培う	25	23.6
4. 社会生活に必要な規範を身につけ実行する態度を培う	18	17.0
	106	100.0

(2) その活動を実施する時に、少年自然の家や青年の家等の青少年教育施設を利用しておりますか。

1. 利用している	20	18.9%
2. 利用していない	86	81.1
	106	100.0

(3) その活動を実施する時に、地域の人々の協力を得て実施しておりますか。

1. い る	59	55.7%
2. い な い	47	44.3
	106	100.0

質問10-1 あなたの学校では、自然と接し、自然の中で行う教育活動を実施しておりますか。

1. 実施している	112	82.4%
2. 実施していない	24	17.6
	136	100.0

質問10-2 質問10-1で、1の答えを選んだ方だけ教えてください。

(1) その活動の主なねらいは、つぎにあげる項目の中でどれに最も近いですか。

1. 自然の厳しさや美しさを知らせる	5	4.5%
2. 動物や植物に対する愛情を培う	10	8.9
3. 自然に親しむ心や敬けんの念を培う	26	23.2
4. 自然と調和して生きていくことの大切さを感じとらせる	22	19.6
5. 自然の中で心身を鍛練する	47	42.0
6. 自然を科学的に理解し探求する態度を培う	2	1.8
	112	100.0

(2) その活動を実施する時に、少年自然の家や青年の家等の青少年教育施設を利用しておりますか。

1. 利用している	54	48.2%
2. 利用していない	58	51.8
	112	100.0

(3) その活動を実施する時に、地域の人々の協力を得て実施しておりますか。

1. い る	50	44.6%
2. い な い	62	55.4
	112	100.0

質問11-1 あなたの学校では、地域の文化にふれる活動を実施しておりますか。

1. 実施している	68	50.0%
2. 実施していない	68	50.0
	136	100.0

質問11-2 質問11-1で、1の答えを選んだ方だけ教えてください。

(1) その活動の主なねらいは、つぎにあげる項目の中でどれに最も近いですか。

1. 郷土の歴史や文化を掘りおこし、新しい目で郷土をみつめさせる	43	63.2%
2. 民話や伝統芸能を継承することの大切さを知らせる	12	17.7
3. 自ら芸術活動に参加していく意欲を育てる	6	8.8
4. 優れた地域文化を鑑賞させる	7	10.3
	68	100.0

(2) その活動を実施する時に、学校外の施設を利用しておりますか。

1. 利用している	35	51.5%
2. 利用していない	33	48.5
	68	100.0

(3) その活動を実施する時に、地区の人々の協力を得て実施しておりますか。

1. い る	60	88.2%
2. い な い	8	11.8
	68	100.0

質問12-1 あなたの学校では、地域の人々とのふれあいはかる活動を実施しておりますか。

1. 実施している	79	58.1%
2. 実施していない	57	41.9
	136	100.0

質問12-2 質問12-1で、1の答えを選んだ方だけ教えてください。

(1) その活動の主なねらいは、つぎにあげる項目の中でどれに最も近いですか。

1. 生徒に地域の形成者の一員であることを自覚させる	29	36.7%
2. 地域の人々との連帯を深めさせる	34	43.0
3. 郷土を愛する心を育てる	16	20.3
	79	100.0

(2) その活動を実施する時に、学校外の施設を利用しておりますか。

1. 利用している	41	51.9%
2. 利用していない	38	48.1
	79	100.0

(3) その活動を実施する時に、地域の人々の協力を得て実施しておりますか。

1. い る	74	93.7%
2. い な い	5	6.3
	79	100.0

質問13 質問9～質問12のような活動がもとになって、生徒たちだけで自主的に活動した事例がありますか。もし、ありましたら の欄に具体的な活動事例をお書きください。

1. あ る	47	34.6%
2. な い	89	65.4
	136	100.0

質問14 あなたの学校では、中学生を対象とする公民館の事業に教員がどのようにかかわることが多いですか。

1. 事業の計画に参画することが多い	15	11.0%
2. 事業の運営に協力することが多い	43	31.6
3. 計画・運営等事業のすべてにわたってかかわることが多い	15	11.0
4. 特にかかわっていない	63	46.4
	136	100.0

質問15 あなたの学校の生徒を公民館等の事業に参加させるとしたら、その内容として最も望ましいものはつぎにあげるものの中でどれでしょうか。

1. スポーツ活動を主としたもの	22	16.2%
2. 奉仕活動を主としたもの	45	33.1
3. 文化活動を主としたもの	14	10.3
4. 伝統文化の継承活動を主としたもの	9	6.6
5. 自然とのふれあい、自然を守る活動を主としたもの	8	5.9
6. 世代間のふれあいはかる活動を主としたもの	20	14.7
7. 中学生をリーダーとして活動させることを主としたもの	18	13.2
	136	100.0

質問16 あなたの学校では、公民館等が主催する事業に対してつぎにあげる学校施設を使用させたことがありますか。

(1) 体育館

1. ある	110	80.9%
2. ない	26	19.1
	136	100.0

(2) グランド

1. ある	122	89.7%
2. ない	14	10.3
	136	100.0

(3) その他の施設

1. ある	45	33.1%
2. ない	91	66.9
	136	100.0

質問17 公民館で中学生を対象とした事業を企画しようとした時、学校として、公民館に最も望むことはつぎにあげるものの中でどれでしょう。

1. 時期や時間についての配慮	70	51.5%
2. 行事の内容やプログラムの組み方についての配慮	39	28.7
3. 指導者や指導体制についての配慮	24	17.6
4. 経費についての配慮	0	—
5. 教員の参加についての配慮	1	0.7
6. 特に望むことはない	2	1.5
	136	100.0

質問18-1 校区内の地域行事や公民館事業の中で、生徒が参加できるものがありますか。

1. かなりある	77	56.6%
2. ほとんどない	50	36.8
3. わからない	9	6.6
	136	100.0

質問18-2 質問18-1で、1の答えを選んだ方だけ答えてください。

あなたの学校では、それらの行事に参加することを生徒にすすめておりますか。

1.すすめている	76	98.7%
2.すすめていない	1	1.3
	77	100.0

質問18-3 質問18-1で、1の答えを選んだ方だけ答えてください。

生徒たちはそれらの行事に参加しておりますか。

1. かなり参加している	51	66.2%
2. あまり参加していない	24	31.2
3. ほとんど参加していない	2	2.6
	77	100.0

質問18-4 質問18-3で、2・3の答えを選んだ方だけ答えてください。

生徒が参加しないのはどうしてだと思いますか。

1. 行事の内容が生徒にあわないから	5	19.2%
2. 生徒は参加する時間がないから	14	53.8
3. 生徒はそれらの行事に関心がないから	6	23.1
4. なぜ参加しないのかわからない	1	3.9
	26	100.0

昭和60年3月20日 印刷

昭和60年3月25日 発行

発行所 山形県教育センター

天童市大字山元字犬倉津 2,515

TEL (0236) 54-2155~9

印刷所 株式会社 大風印刷天童営業所

天童市久野本 4-16-2

TEL (0236) 54-5715
